

近畿大学  
心理臨床・教育相談センター紀要

第5巻

Vol.5

2020

近畿大学  
心理臨床・教育相談センター

## 目 次

巻 頭 言	小泉 隆平	
<b>論文</b>		
昼間定時制高校新生における情動知能と自尊感情の関連 —自尊感情のレベルと変動性に着目して—	赤松 大輔・小泉 隆平	1
休憩室に設置された小型人工観葉植物による精神的ストレスの緩和効果	佐藤 望・向井 加奈	13
勤務時間外の業務連絡に対する意識が心理的ディタッチメントと職業性 ストレスに与える影響	本岡 寛子・赤羽 紗季	23
<b>学外実習報告</b>		
医療領域での実習		
近畿大学医学部附属病院メンタルヘルス科	服部 光希	35
近畿大学医学部附属病院心療内科（堺咲花病院含む）	赤羽 紗季	36
医療法人養心会 国分病院	服部 光希	37
教育領域での実習		
京都府立清明高等学校	横田 卓也	39
東大阪市教育センター 適応指導教室	藤枝 周平	40
福祉領域での実習		
株式会社みどりトータル・ヘルス研究所	藤枝 周平	41
YCC子ども教育研究所	藤枝 周平	42
NPO法人 み・らいず	横田 卓也	43
産業領域での実習		
NPO法人 大学院連合メンタルヘルスセンター	赤羽 紗季	45

## 施設見学報告

### 施設見学について

医療法人養心会 国分病院	井上 競	47
守口市市民保健センター	末田 梓乃	48
大阪府立子どもライフサポートセンター	國廣 彩子	48
株式会社エンカレッジ	竹田 典	49
東大阪市教育センター	出口 茉由	50

## 活動報告

2019年度 心理臨床・教育相談センター活動報告	小泉 隆平・徳山 友子	53
--------------------------	-------------	----

## 資 料

近畿大学 心理臨床・教育センター紀要 執筆要項		59
近畿大学 心理臨床・教育相談センター規程		61

## 巻 頭 言

新型コロナウイルス（COVID-19）の蔓延の影響を受け、令和2年4月7日から心理臨床・教育相談センターは一時閉室となり、相談業務を一時中断させていただきました。その後、大学構内閉鎖の一部緩和に連動し、感染症等医学の専門家の助言を得て万全の感染防止対策を講じた上で、令和2年6月15日からセンターの開室、相談業務の再開となりました。その後も、感染防止の観点から、入室人数・入室時間等の制限を継続しています。面接室の換気・消毒は当然のこと、触れる可能性のある物や使用した備品等の消毒を毎回徹底的に行っていますので、お受けできる相談件数も限られています。皆様の安心・安全のためとはいえ、来談者の皆様にはたいへんご不便をおかけしており申し訳ございません。

このように物理的に制限されたなかで相談業務、教育・研究活動を行っていますが、令和2年度より、相談員や教員がインテーク面接した相談ケースについて、その後の継続面接を院生が担当できる機会を増やしました。院生にとっては、講義・演習・実習などで学んだ知識や態度を実践する機会が増えました。こうした調整は、大学院修了後まもなく公認心理師や臨床心理士として臨床現場に立つ専門家の養成機関としての責任を果たすために必要なことと考えています。院生のみなさんには、在学中から相談業務をすでに専門家として行っているという強い責任感と自覚のもとに今一度気を引き締めていただきたいと思っています。

新型コロナウイルス（COVID-19）は、長期的に人の心に影響を与えることでしょう。また、人と人がつながる方法に不可逆的な変化をもたらすものと思われます。相談業務でのICTの利用拡大などの変化も予想されます。一方で、人の心のはたらきや求められる支援の内容そのものは変わらないと考えています。

相談業務や教育・研究活動をめぐる環境の変化に柔軟に対応しながら、これからも専門性の高い相談業務や丁寧な院生指導を継続し、近畿大学心理臨床・教育相談センターのさらなる発展をめざして、努めてまいりたいと考えております。

皆様方のご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和3年3月15日

近畿大学総合社会学部 教授

近畿大学心理臨床・教育相談センター長

小 泉 隆 平

## 「近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要」 執筆要項

2020年2月改訂

1. 近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要（以下、心理臨床・教育相談センター紀要）に掲載されるのは、(1) 論文、事例報告 (2) 心理臨床・教育相談センター活動報告、(3) その他、とする。
2. 投稿資格は、近畿大学心理臨床・教育相談センターの相談員ならびに近畿大学の教員、近畿大学大学院総合文化研究科心理学専攻の学生もしくはその修了者、研修員であることとする。更に、当センターに寄与すると認める者。
3. 論文は、臨床心理学、教育相談等に関する未公開の論文とする。
4. 事例・調査の場合、対象者の了解を得る。了解が得られない場合には、個人が特定される情報には十分配慮し、プライバシーを尊重する。
5. 論文の内容は未公刊（学術および一般雑誌、大学や研究機関の紀要、一般図書に掲載されたことのない）のものに限る。
6. 論文は、内容によって研究論文、事例論文に分けられる。論文は臨床心理学、教育相談等に関する学術論文を示し、研究論文は、A4の用紙で縦置き・横書きで40字×30行×14枚を限度とする。事例論文は、40字×30行×11枚を限度とする。事例報告は、40字×30行×7枚を限度とする。
7. 論文の投稿に際しては、紀要原稿添付表、ワープロソフト（Wordを基本とする）を用いて作成した論文1部（電子媒体）を提出する。1ページは1200字（40字×30行）横書きとし、10.5ポイント以上のサイズの文字を用いる。
8. 研究論文の構成は、表題、著者氏名と所属、英文表題、英文著者氏名と所属、日本語要約（キーワードを含む）、問題（または目的）、方法、結果、考察、引用文献からなることを原則とする。英文論文の場合、ネイティブスピーカーに校閲を受けることが望ましい。
9. 論文原稿の作成にあたって留意すること。
  - (1) 原稿第1ページから本文とし、付記、謝辞、文献まで続ける。別紙に表題、著者名、英文著者名と所属機関名（教員は学部まで、院生はコースまで）をこの順に記す。共著の場合、すべての英文共著者名と所属機関名を記載する。
  - (2) 本文中の章、節、項には、それぞれⅠ、Ⅱ、Ⅲ……、1、2、3、……、(1)、(2)、(3)、……、の番号で表記する。
  - (3) 図、表などは、別紙に記し、本文中に挿入場所を指定する。また、図はFigure 1……、表はTable 1……、という形式で通し番号をつける。
  - (4) 句読点は「。」「,」とする。
  - (5) 引用文献は、論文の最後に、著者名のアルファベット順に、一括して挙げる。文献の示し方は日本心理臨床学会「心理臨床学研究」執筆要項に従うこと。
  - (6) 脚注は通し番号をつけ、別紙に記載する。本文中にはそれに対する番号を上付1/4角で付ける。
  - (7) 要約の長さは日本文の場合は400～600字、英文の場合は100～175語とする。また、5つ以内のキーワードをつける。要約とキーワードは別紙に記載する。
10. 投稿原稿の採択と掲載の採否は、査読を経て編集委員会で決定し、投稿者（著者）に通知する。
11. 論文の抜刷りは、30部までは無料とする。

12. 心理臨床・教育相談センター紀要に掲載される原稿の著作権は、著作者および共著者に帰属する。ただし、著作者および共著者は、当該原稿に係る複製権、公衆送信権および譲渡権の許諾を心理臨床・教育相談センターに与えるものとする。また、著作者および共著者は、心理臨床・教育相談センターが当該原稿の電子化・公開を委託する機関に対して、公衆送信権および複製権の許諾を与えるものとする。

近畿大学 心理臨床・教育相談センター紀要 第5巻

---

発行日 令和3年3月15日

編集・発行 近畿大学 心理臨床・教育相談センター  
〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号  
TEL (06) 4307 - 3105  
FAX (06) 6721 - 2338

印刷 近畿大学管理部用度課（出版印刷）

---

